

令和2年12月13日(日)に浜松市中区にある正農寺というお寺の境内をお借りして、「焚き火、ヤキイモ、おしゃべり」という集いを開催させていただきました。

これは、私が前回(令和2年11月30日)記事を書かせていただいた公開講座「人と人をつなぐ暮らしぶりってどんなもの？」の場において、講師の西川正先生が紹介して下さった「おとうさんのヤキイモタイム」にヒントを得て思いついたもので、「おとうさんのヤキイモタイム」は、育児参加や地域参加をためらうお父さん向けの行事だったのですが、それをアレンジしてシニアから子どもまであらゆる世代の人達が焚き火を囲んで、ゆるやかにコミュニケーションできる集いと考えたものです。(前回の私の記事。公開講座「人と人をつなぐ暮らしぶりってどんなもの？」のリンクは一番下に貼っておりますので、こちらも興味のある方はご覧いただければ幸いです)



[うまく点火するかな～？](#)



[いい感じで焚き火が仕上がりました♪](#)

さて、一緒に講座を聞かせていただいた友人2人と私が共同主催者となって、フェイスブックで「焚き火、ヤキイモ、おしゃべり」と題してイベントを立ち上げてみたところ、ビックリするほど反応が大きく、たくさんの問い合わせがありました。わずか2日間足らずで申し込みが20人を越えてしまったので、駐車場の関係もあって募集を締め切りました。しかし結果的にはそこからさらに増えて、結局25人ぐらいの集いとなりました。

火おこしだけは主催者達でやりましたが、おイモをアルミホイルにくるんだり、椅子やテーブルを出したり等の準備は、全て参加者の方々に手伝ってもらって一緒にやりました。そういうことも、お互いに打ち解けて仲良くなるためには良いことのようにです。そして火が安定しておイモを投入してしまえば、後はノンビリとくつろぐだけです。



[おイモは弱火のほうでじっくり！](#)



[火があるだけで話は弾みます！](#)

西川先生がおっしゃるように、人間は焚き火の火を囲んでいるだけで、なぜかほっこりとした気分になるようです。「初めまして」の方も多かったので、最初は緊張しているように見受けられる方もいたのですが、すぐに打ち解けて楽しいおしゃべりが始まりました。お互いの趣味の話や食べ物の話…あるいは若者の悩みをシニア世代の参加者が聞いてあげていたり、なかなか有意義なコミュニケーションが出来ていたように見受けられました。もちろん子ども達も楽しくて大はしゃぎでしたし、私自身いろいろな方から新しいお話を伺うことができとても勉強になりました。

ついでに言えば、ヤキイモ用のサツマイモとジャガイモは、せっかくなのでできるだけ安心・安全なものを選び、有機農家さんから購入して皆さんに味わってもらいました。(肝心のおイモの写真を完全に撮り忘れてます！すみません)

後は皆さんの差し入れていろいろなものを焼いて食べました。私は米糰から手作りした甘酒をお振る舞いさせていただきました。



[参加者の方の差し入れの銀杏も焼きました](#)



[チョコレートを含んで焼きバナナです](#)



[ちょっと暗くなってきてからが焚き火の真骨頂](#)



[真っ暗になるまで皆のお話は尽きませんでした](#)

というわけで、新型コロナの影響でなかなか人と人のつながりを設定することができず、密かに危機感をつのらせていた今日この頃でしたが、野外でのこのような集まりは感染の危険も少なく、こういう時期にはもってこいの良い集いだったと思っています。もちろん感染防止のためには細心の注意を払わなければならないことは言うまでもありませんが、皆さんもどこか広い場所を探してヤキイモでも焼いてみたら如何でしょうか？

取材：浜松南部・湖西地区担当 生きがい特派員 丸山敬

[公開講座「人と人をつなぐ暮らしぶりってどんなもの？」](#)

ツイートする